

第 164 回 日本循環器学会東北地方会

プログラム

会 期：平成 29 年 6 月 10 日（土）午前 9 時 5 分より

会 場：盛岡地域交流センター「マリオス」18F

盛岡市盛岡駅西通二丁目 9 番 1 号

TEL 019 (621) 5000

第 1 会場：183～185 会議室

第 2 会場 (1)：180 会議室

第 2 会場 (2)：181 会議室

第 3 会場：188 会議室

第 4 会場：187 会議室

第 5 会場：186 会議室

会長 森野 禎浩

事務局：岩手医科大学内科学講座循環器内科分野

岩手県盛岡市内丸 19-1

TEL 019 (651) 5111

○当日受付にて参加費のお支払いをお願いいたします。

（医師／その他 3,000 円、コメディカル 1,000 円、学生・初期研修医 無料）

○一般演題：発表時間は 5 分（予鈴 4 分）、追加討論 2 分、YIA の発表時間は 7 分（予鈴 6 分）、追加討論 3 分とします。時間厳守をお願いします。

- ・コンピュータープレゼンテーションによる発表のみとします。
- ・Windows 版 PowerPoint2007、2010、2013 で作成して下さい。
- ・動画は使用できません。
- ・Macintosh 及び持込 PC での発表はできません。
- ・**発表 30 分前までに**、作成したデータを USB メモリに置いて PC 受付にお持ち下さい。
- ・データのファイル名には演題番号（半角）に続けて発表者の氏名（漢字）を必ずつけて下さい（例：20 岩手太郎 .ppt）。
- ・不測の事態に備えて必ずバックアップデータをお持ち下さい。

○DVD セッション「医療安全・医療倫理に関する講演会」を「186 会議室」で行います。

専門医認定更新に必修の 2 単位が取得できます。（P.25 参照）

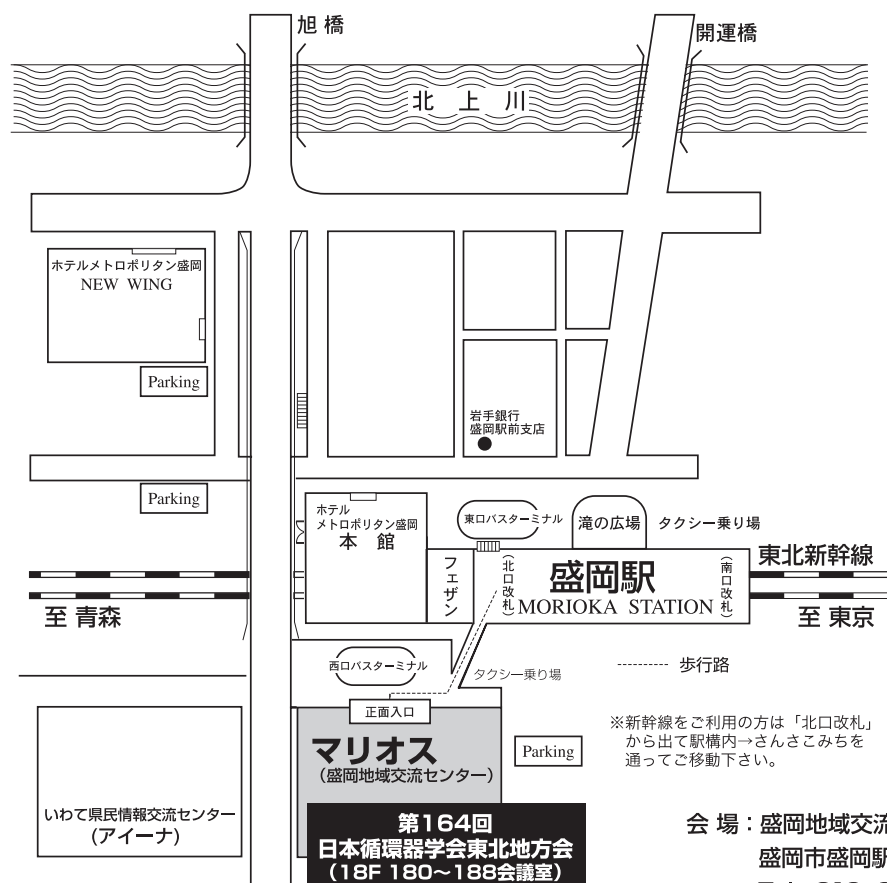
○会場にクロークの設置はございません。

○本会場近隣施設内に託児施設を設置いたします。

ご希望の方は東北支部 HP をご参照の上、6 月 2 日（金）までにお申し込みください。

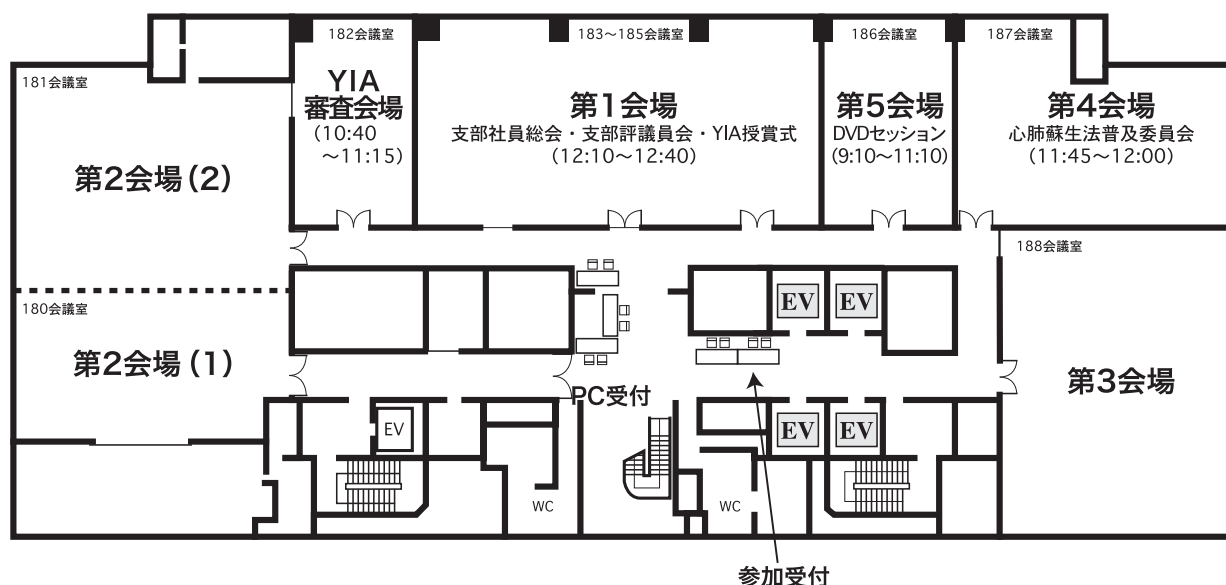
追記：学会案内状・プログラムは、原則として日本循環器学会会費納入者に限り発送いたします。

■会場案内図



会 場：盛岡地域交流センター マリオス18階(会議室)
盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号
Tel：019-621-5000
URL <http://www.malios.co.jp/>

■マリオス18F平面図



※小児・成人先天性心疾患部会 小児・成人先天性心疾患セミナーは
マリオス 5F 盛岡市民文化ホール第2会議室にて開催いたします。

プログラム（敬称略）

	第1会場 (183～185会議室)	第2会場(1) (180会議室)	第2会場(2) (181会議室)	第3会場 (188会議室)	第4会場 (187会議室)	YIA審査会場 (182会議室)	第5会場 (186会議室)	盛岡市民文化ホール 第2会議室(5F)
8:00								
	8:10 受付開始							
9:00	9:05～9:10 開会挨拶							
9:10	9:10～10:00 YIA症例発表部門 座長:森野禎浩 (岩手医科大学)	9:10～9:45 不整脈1 座長:寺田 健 (秋田県立脳血管研究センター)	9:10～9:45 血栓症・末梢動脈 座長:堀江和紀 (仙台厚生病院)	9:10～9:45 虚血性心疾患1 座長:樋熊 拓未 (弘前大学)	9:10～9:45 心不全1 座長:松本泰治 (東北大学)			
10:00	10:00～10:40 YIA研究発表部門 座長:森野禎浩 (岩手医科大学)	9:45～10:20 不整脈2 座長:大和田真玄 (岩手医科大学)	9:45～10:20 心筋炎・心筋症1 座長:宮本卓也 (山形大学)	9:45～10:20 虚血性心疾患2 座長:渡邊 哲 (山形大学)	9:45～10:20 心不全2 座長:中野陽夫 (東北医科大学)		9:10～11:10 DVDセッション 医療安全・医療倫理 に関する講演会	
		10:20～10:55 不整脈3 座長:佐々木真吾 (弘前大学)	10:20～10:55 心筋炎・心筋症2 座長:小山 崇 (秋田大学)	10:20～10:48 虚血性心疾患3 座長:飯野健二 (秋田大学)		10:40～11:15 YIA審査会 ・10:40～11:00 集 計 ・11:00～11:15 審査会		10:00～11:30 小児・ACHD セミナー
11:00	10:50～11:50 第6回禁煙推進委員会 地方会セッション 座長:佐藤 誠 (中通総合病院) 中島悟史 (岩手医科大学)	10:55～11:30 不整脈4 座長:上岡正志 (福島県立医科大学)	10:55～11:30 弁膜症1 座長:房崎哲也 (岩手医科大学)	10:48～11:23 心膜・腫瘍 座長:矢作 浩一 (栗原中央病院)		11:15～11:45 支部役員会		
		11:30～12:05 大動脈 座長:高瀬信弥 (福島県立医科大学)	11:30～11:58 弁膜症2 座長:熊谷亜希子 (岩手医科大学)	11:23～12:05 肺循環 座長:中里和彦 (福島県立医科大学)	11:45～12:00 心肺蘇生法普及委員会			
12:00	12:10～12:40 支部社員総会 支部評議員会 YIA授賞式							
13:00	12:50～13:50 教育セッション2 ランチョンセミナー2 伊藤智範 岩手医科大学 絹川弘一郎 富山大学大学院 座長:竹石恭知 (福島県立医科大学)	12:50～13:50 教育セッション1 ランチョンセミナー1 國原 孝 心臓血管研究所付属病院心臓血管外科 多田 憲生 仙台厚生病院循環器内科 座長:金 一 (岩手医科大学)					講師控室	
14:00	13:50～14:50 教育セッション3 特別講演 辻田賢一 熊本大学大学院 生命科学研究部 座長:森野禎浩 (岩手医科大学)							
15:00								

* 平成 27 年 12 月より、下記 3 つの会を開催します。
「支部役員会（毎回開催）」「支部社員総会（毎年 6 月のみ開催）」、「支部評議員会（毎回開催）」
従来通り一般会員の先生方のご参加は可能ですが、議決権は有しません。

YIA 症例発表部門（第 1 会場 183～185 会議室） 9：10～10：00

座長 森野 禎浩

01 左脚ブロック型 wide QRS regular tachycardia を呈した非通常型房室結節リエントリー性頻拍の一例

青森県立中央病院 循環器科

○熊江 優、金城 貴彦、館山 俊太、鈴木 晃子
佐々木憲一、櫛引 基、今田 篤、藤野 安弘

弘前大学 大学院医学研究科 高血圧・脳卒中内科学講座

木村 正臣

02 左室内に巨大血栓を形成した若年発症の陳旧性心筋梗塞の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科

○野坂 匡史、花田 賢二、遠藤 知秀、西崎 史恵
横山 公章、横田 貴志、山田 雅大、樋熊 拓未
富田 泰史

03 高安動脈炎の病像を呈した大血管内膜肉腫の 1 症例

秋田大学 大学院医学系研究科 循環器内科学

○須藤 佑太、佐藤 輝紀、佐藤 和奏、岩川 英弘
飯野 貴子、飯野 健二、渡邊 博之、伊藤 宏

04 冠攣縮性狭心症を合併しその加療により運動耐容能が著明に改善した肥大型心筋症の 1 例

東北大学 循環器内科学

○杉澤 潤、羽尾 清貴、土屋 聡、進藤 智彦
菊地 翼、松本 泰治、高橋 潤、杉村宏一郎
坂田 泰彦、下川 宏明

05 長期経過を経て確定診断に至った ACVRL1 遺伝子異常を伴う肺動脈性肺高血圧の 1 症例

福島県立医科大学 医学部 循環器内科

○君島 勇輔、杉本 浩一、中里 和彦、義久 精臣
國井 浩行、斎藤 修一、石田 隆史、竹石 恭知

公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院 臨床遺伝科

森崎 裕子

独立法人国立循環器病研究センター 病理部

山田 修

YIA 研究発表部門（第 1 会場 183～185 会議室） 10：00～10：40
座長 森野 禎浩

06 急性冠症候群患者の長期予後に冠動脈架橋構造が与える影響

岩手医科大学医学部附属病院 循環器センター

○二宮 亮、木村 琢巳、肥田 頼彦、石田 大
房崎 哲也、伊藤 智範、森野 禎浩

07 肺動脈性肺高血圧症の長期予後に対する右心機能と性差の関連

東北大学 循環器内科学

○神津 克也、杉村宏一郎、青木 竜男、建部 俊介
山本 沙織、矢尾板信裕、佐藤 遥、紺野 亮
後岡広太郎、佐藤 公雄、宮田 敏、下川 宏明

08 腸腰筋 CT 値の低下は末梢動脈疾患患者の予後を予測する

山形大学医学部第一内科

○須貝 孝幸、高橋 大、横山 美雪、大瀧陽一郎
西山 悟史、有本 貴範、穴戸 哲郎、宮本 卓也
渡邊 哲、久保田 功

09 心房細動を合併した症候性心不全患者における DOAC の有用性

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○佐藤 悠、義久 精臣、佐藤 崇匡、鈴木 聡
及川 雅啓、小林 淳、国井 浩行、八巻 尚洋
中里 和彦、竹石 恭知

不整脈 1（第 2 会場(1) 180 会議室） 9：10～9：45

座長 寺田 健

10 遠隔モニターにて死亡が疑われ、遺体発見に至った冠攣縮性狭心症の一例

仙台医療センター 循環器内科 ○山口 展寛、林 秀華、高橋 佳美、山中 信介
尾上 紀子、石塚 豪、篠崎 毅

11 Ca 拮抗薬大量服薬による徐脈、血圧低下に対し大量インスリン療法が有効であった一例

国立病院機構仙台医療センター 循環器内科

○林 秀華、高橋 佳美、山中 信介、藤田 央
山口 展寛、尾上 紀子、石塚 豪、篠崎 毅

12 心筋梗塞後に発症したアミオダロン耐性の electrical storm に対して、ニフェカラントが著効した一例

岩手県立宮古病院

○石曾根武徳、臼井 雄太、前川 裕子

岩手医科大学内科学講座循環器内科分野

大和田真玄、後藤 巖、中島 悟史、木村 琢己
田中健太郎、森野 禎浩

岩手県立久慈病院

辻 佳子

八戸赤十字病院

二宮 亮

岩手県立中部病院

河合 悠

13 甲状腺クリーゼに合併した心室細動の一例

秋田大学医学部付属病院 循環器内科

○加藤 宗、真壁 伸、奈良 育美、渡部久美子
飯野 健二、渡邊 博之、伊藤 宏

14 様々な不整脈を呈した虚血性心疾患の一例

公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂綜合病院 循環器内科

○間 彩、水上 浩行、谷川 俊了、鈴木 智人
金澤 正晴

不整脈 2（第 2 会場(1) 180 会議室） 9：45～10：20

座長 大和田 真玄

15 肺静脈共通幹を有する心房細動症例に対し、クライオアブレーションを施行した 1 例

仙台市立病院 循環器内科

○井筒 琢磨、八木 哲夫、石田 明彦、三引 義明
山科 順裕、佐藤 弘和、中川 孝、佐藤 英二
植田 寿里、鈴木 啓資、佐藤 舞

16 心室中隔欠損症術後遠隔期に発生した三尖弁輪側壁を共通路とした Dual loop re-entry 心房頻拍の一例

福島県立医科大学循環器内科

○武田由紀子、上岡 正志、神 雄一郎、鈴木 聡
小林 淳、鈴木 均、竹石 恭知

17 コンタクトフォースカテーテル使用で穿孔に至った右室流出路起源特発性心室期外収縮の 2 症例についての検討

仙台市立病院

○鈴木 啓資、八木 哲夫、石田 明彦、三引 義明
山科 順裕、佐藤 弘和、中川 孝、佐藤 英二
植田 寿里、佐藤 舞、井筒 琢磨

18 Rhythmia™ による詳細なマッピングにより根治しえた分界陵起源心房頻拍の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科

○川村 陽介、石田 祐司、木村 正臣、對馬 佑一
小路 祥紘、金城 貴彦、堀内 大輔、佐々木真吾
富田 泰史

19 心房細動を伴った弁膜症に対して新しいアブレーションシステム（CryoICE）を用いてメイズ手術を行った 1 例

仙台循環器病センター 心臓血管外科

○日野阿斗務、椎川 彰、細田 進

不整脈 3（第 2 会場(1) 180 会議室） 10：20～10：55

座長 佐々木 真吾

20 筋電位のオーバーセンシングにより完全皮下植え込み型除細動器（S-ICD）の不適切作動に至った一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学・呼吸器内科学

○岩川 英弘、小山 崇、阿部 起実、田村 善一
真壁 伸、関 勝仁、飯野 健二、渡邊 博之
伊藤 宏

21 CRT-D 抜去後に冠静脈側壁枝の閉塞が見られた 1 例

仙台厚生病院 心臓血管センター 循環器内科

○箴井 宣任、伊澤 毅、富樫 大輔、須知 太郎
不破 貴史、松本 崇、堀江 和紀、多田 憲生
桜井 美恵、宗久 佳子、宗久 雅人、本多 卓
大友 達志、井上 直人、目黒泰一郎

22 “tetra-axial” system を用いた大腿静脈アプローチによるリード抜去術

仙台厚生病院 循環器科

○勝目 有美、伊澤 毅、本多 卓、大友 達志
井上 直人、目黒泰一郎

高石藤井心臓血管病院 心臓血管センター

山田 貴之

仙台厚生病院 心臓血管外科

山谷 一広、畑 正樹

23 左室充満時間低下を認めた患者に対し心臓再同期療法が奏功した一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学呼吸器内科学

○奈良 育美、関 勝仁、木村 俊介、新保 麻衣
飯野 貴子、真壁 伸、小山 崇、飯野 健二
渡邊 博之、伊藤 宏

24 両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器の電池交換時に左心不全を呈した一例

太田総合病院附属 太田西ノ内病院

○西浦 司人、武田 寛人、大原妃美佳、和田 健斗
安藤 卓也、金澤 晃子、石田 悟朗、神山 美之
小松 宣夫

福島県立医科大学 循環器内科学講座

竹石 恭知

不整脈 4（第 2 会場(1) 180 会議室） 10：55～11：30

座長 上岡 正志

25 着用型自動除細動器の使用により十分な ICD 適応判定が可能であった流出路起源心室期外収縮誘発性心筋症の 1 例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科

○北山 和敬、石田 祐司、木村 正臣、對馬 佑一
小路 祥紘、金城 貴彦、堀内 大輔、佐々木真吾
富田 泰史

26 術後一過性房室ブロックを呈した中隔副伝導路を有する WPW 症候群の一例

東北大学 循環器内科学

○中野 誠、長谷部雄飛、木村 義隆、千葉 貴彦
深澤恭之朗、三木 景太、諸沢 薦、下川 宏明

27 僧帽弁輪 3 時方向に心房最早期興奮部位を認めた fast/slow 型 AVNRT の一例

東北大学 循環器内科学

○長谷部雄飛、三木 景太、木村 義隆、千葉 貴彦
深澤恭之朗、中野 誠、下川 宏明

28 Reverse common AFL に類似した propagation を呈した LLRA 起源 AT の一例

東北大学 循環器内科学

○中野 誠、長谷部雄飛、木村 義隆、千葉 貴彦
深澤恭之朗、三木 景太、諸沢 薦、下川 宏明

29 三尖弁輪側壁を起源とする ATP 感受性心房頻拍の一例

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科

○田中健太郎、大和田真玄、芳沢 礼祐、森野 禎浩

岩手医科大学 内科学講座 心血管・腎・内分泌内科

梶田 房紀、小松 隆、中村 元行

大動脈（第2会場(1) 180 会議室） 11：30～12：05

座長 高瀬 信弥

30 慢性B型大動脈解離に対するTEVAR後のType1a エンドリークに対して、偽腔からのコイル塞栓術を施行した一例

福島県立医科大学 心臓血管外科 ○瀬戸 夕輝、佐戸川弘之、高瀬 信弥、若松 大樹
佐藤 善之、黒澤 博之、山本 晃裕、横山 斉
東京医科歯科大学 放射線科 片田 芳明

31 経皮的冠動脈形成術によるバルサルバ洞解離から1年後に上行大動脈解離を来した一例

山形大学 医学部 第一内科 ○大瀧陽一郎、宮本 卓也、山浦 玄斎、和根崎真大
沓澤 大輔、田村 晴俊、西山 悟史、高橋 大
有本 貴範、穴戸 哲郎、山中 多聞、渡邊 哲
久保田 功

32 冠動脈疾患の合併が大動脈瘤患者の予後に与える影響の検討

山形大学 医学部 内科学第一講座
○渡部 賢、渡邊 哲、田村 晴俊、西山 悟史
高橋 大、有本 貴範、穴戸 哲郎、山内 聡
山中 多聞、宮本 卓也、久保田 功

33 4回の手術にて胸腹部大動脈全置換術を施行した1例－手術の工夫－

脳神経疾患研究所付属 総合南東北病院 心臓血管外科
○滝浪 学、菅野 恵、緑川 博文、植野 恭平
影山 理恵

34 手術適応の大動脈瘤に合併する冠動脈疾患の検討

山形県立中央病院 ○齋藤 拓矢、高橋 克明、數野 健、佐藤 大樹
鈴木 康太、大道寺飛雄馬、加藤 重彦、玉田 芳明
福井 昭男、松井 幹之、矢作 友保

血栓症・末梢動脈（第2会場(2) 181 会議室） 9：10～9：45

座長 堀江 和紀

35 当院で経験した左心系心内血栓について

岩手県立中部病院

○西澤 健吾、土川 幹史、井筒 大人、佐々木 航
盛川 宗孝、齊藤 秀典

36 ダビガトラン不応性の左房血栓をリバーロキサバンに変更し溶解しえた持続性心房細動の1例

仙台市立病院 循環器内科

○伏見 八重、佐藤 弘和、石田 明彦、三引 義明
山科 順裕、中川 孝、佐藤 英二、鈴木 啓資
井筒 琢磨、八木 哲夫

37 片腎動脈高度狭窄に対して腎動脈形成術が奏功した腎血管性高血圧症の一例

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学

○佐藤 輝紀、飯野 健二、岩川 英弘、山中 卓之
小山 崇、渡邊 博之、伊藤 宏

38 腎動脈瘤に対してカバードステント留置術を施行した2例

仙台厚生病院 心臓センター 循環器内科

○柳内 隆、堀江 和紀、田中綾紀子、宗久 雅人
井上 直人

39 カテーテル治療で救済した重症上肢虚血の一症例

仙台厚生病院

○堀江 和紀、田中綾紀子、宗久 雅人、大友 達志
井上 直人

心筋炎・心筋症 1（第 2 会場(2) 181 会議室) 9:45～10:20

座長 宮本 卓也

40 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症による心不全と診断した一部検例

公益財団法人星総合病院循環器内科

○磯松 大介、安齋 文弥、市村 祥平、八重樫大輝
佐藤 彰彦、清水 竹史、松井 佑子、金子 博智
坂本 圭司、清野 義胤、木島 幹博、丸山 幸夫

福島県立医科大学 病理病態診断学講座

金居 李紗、橋本 優子

41 当院における好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の心合併症に対する検討

国立病院機構仙台医療センター 循環器内科

○大山亜紗美、林 秀華、高橋 佳美、山中 信介
藤田 央、山口 展寛、尾上 紀子、石塚 豪
篠崎 毅

42 完全房室ブロックで発症した急性心筋炎の一例

福島県立医科大学 医学部 循環器内科学講座

○横川沙代子、及川 雅啓、寶槻 優、松本 善幸
横川 哲朗、中里 和彦、鈴木 均、斎藤 修一
石田 隆史、竹石 恭知

43 同一家系内 Fabry 病患者における臨床像

東北大学 循環器内科学

○山本 沙織、杉村宏一郎、青木 竜男、建部 俊介
佐藤 遥、神津 克也、紺野 亮、後岡広太郎
佐藤 公雄、下川 宏明

44 心臓腫瘍と鑑別を要した腫瘍様心筋肥大の一例

弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科

○三浦 尚武、山田 雅大、樋熊 拓未、富田 泰史

心筋炎・心筋症 2（第 2 会場(2) 181 会議室） 10：20～10：55

座長 小山 崇

45 たこつぼ心筋症急性期の心筋 perfusion 画像

国立病院機構 仙台医療センター 循環器内科

○勝又 勇樹、尾上 紀子、林 秀華、高橋 佳美
山中 信介、藤田 央、山口 展寛、石塚 豪
篠崎 毅

46 完全房室ブロックを合併し急性心不全を発症した閉塞性肥大型心筋症の一例

石巻赤十字病院 循環器内科

○田中 裕紀、安藤 薫、高畑 葵、小張 祐介
石垣 大輔、玉渕 智昭、小山 容、祐川 博康

47 3D プリンタによる心臓立体モデルが術前の形態評価に有用であった心室中部閉塞性肥大型心筋症の一例

仙台厚生病院 循環器内科

○富樫 大輔、田中綾紀子、箴井 宣任、松本 崇
堀江 和紀、伊澤 毅、桜井 美恵、多田 憲生
宗久 佳子、宗久 雅人、本多 卓、大友 達志
仙台厚生病院 心臓血管外科 畑 正樹

48 高度房室ブロック発症から 4 年後に心不全症状を認めた心サルコイドーシス疑いの一例

いわき市立総合磐城共立病院 初期研修医

○鴻地 由大

いわき市立総合磐城共立病院 循環器内科

瀬川 将人、工藤 俊、塙 健一郎、高木 祐介
相澤健太郎、山下 文男、山本 義人、杉 正文

49 心アミロイドーシスの鑑別に心臓 MRI T1 マッピングが有用であった多発性骨髄腫の一例

東北大学 循環器内科学

○佐藤 遥、杉村宏一郎、建部 俊介、青木 竜男
山本 沙織、矢尾板信裕、神津 克也、紺野 亮
佐藤 公雄、下川 宏明
東北大学 血液免疫学分野 福原 規子

弁膜症 1 (第 2 会場(2) 181 会議室) 10:55 ~ 11:30

座長 房崎 哲也

50 イタルシズマブを使用した緊急 TAVI の一例

仙台厚生病院 循環器内科	○土岐 祐介、多田 憲生、遠田 佑介、水谷有克子
	松本 崇、桜井 美恵、大友 達志
仙台厚生病院 麻酔科	井上 洋
仙台厚生病院 心臓血管外科	畑 正樹

51 当院における経カテーテル的大動脈弁置換術 100 症例の治療成績

岩手医科大学附属病院循環器医療センター 循環器内科	○坂本 翼、肥田 頼彦、古味 良亮、小田 英人
	二宮 亮、臼井 雄太、石川 有、下田 祐大
	房崎 哲也、田代 敦、森野 禎浩
中通総合病院 循環器内科	阪本 亮平
岩手医科大学附属病院循環器医療センター 心臓血管外科	鎌田 武、金 一
岩手医科大学附属病院循環器医療センター 放射線科	吉岡 邦浩

52 高度大動脈弁狭窄症に対する TAVR 後に貧血の改善を認め、Heyde 症候群が疑われた 1 例

岩手医科大学附属病院循環器医療センター 循環器内科	○坂本 翼、肥田 頼彦、古味 良亮、小田 英人
	二宮 亮、臼井 雄太、石川 有、下田 祐大
	房崎 哲也、田代 敦、森野 禎浩
中通総合病院 循環器内科	阪本 亮平
岩手医科大学附属病院循環器医療センター 心臓血管外科	鎌田 武、金 一
岩手医科大学附属病院循環器医療センター 放射線科	吉岡 邦浩

53 Valsalva 洞径から検討した経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) device の選択 - 当院における経験 -

東北大学 循環器内科学	○土屋 聡、松本 泰治、菊地 翼、杉澤 潤
	羽尾 清貴、高橋 潤、下川 宏明
東北大学病院 心臓血管外科	川本 俊輔、熊谷紀一郎、齋木 佳克

54 緊急バルーン大動脈弁形成術にて救命できた重度大動脈弁狭窄症による心原性ショックの一例

いわき市立総合磐城共立病院 循環器内科	○安達 祐里、工藤 俊、高木 祐介、鴻地 由大
	瀬川 将人、埴 健一郎、相澤健太郎、山下 文男
	山本 義人、杉 正文

弁膜症 2（第 2 会場(2) 181 会議室) 11:30～11:58

座長 熊谷亜希子

55 バルサルバ洞に局限した大動脈解離による大動脈弁閉鎖不全症の一例

福島県立医科大学循環器内科学講座

○黒沢 雄太、八巻 尚洋、佐藤 悠、益田 淳朗
金城 貴土、鈴木 均、斎藤 修一、石田 隆史
竹石 恭知

福島県立医科大学心臓血管外科学講座

瀬戸 夕輝、高瀬 信弥、横山 斉

56 肺動脈四尖弁に伴う肺動脈弁狭窄症に対し経皮的肺動脈弁形成術を施行した一例

星総合病院 循環器内科

○野崎 祐司、清水 竹史、市村 祥平、八重樫大輝
安齋 文弥、佐藤 彰彦、松井 佑子、金子 博智
坂本 圭司、清野 義胤、木島 幹博、丸山 幸夫
多田 憲生

仙台厚生病院 循環器内科

57 大動脈弁狭窄症を合併した非心臓手術患者における術前バルーン拡張術

いわき市立総合磐城共立病院 循環器内科

○高木 祐介、工藤 俊、塙 健一郎、瀬川 将人
相澤健太郎、山下 文男、山本 義人、杉 正文

58 黄色ブドウ球菌を起炎菌とする感染性心内膜炎に運動失調を合併した 1 例

みやぎ県南中核病院 循環器内科

○福井 健人、富岡 智子、伊藤 愛剛、塩入 裕樹
小山 二郎、井上 寛一

虚血性心疾患 1（第 3 会場 188 会議室） 9：10～9：45

座長 樋熊 拓末

59 ウロキナーゼ冠動脈内投与が有効であった若年発症の心筋梗塞の 2 症例

岩手県立中央病院 循環器内科 ○中田 貴史、近藤 正輝、門坂 崇秀、渡辺 翼
照井 洋輔、佐藤謙二郎、金澤 正範、遠藤 秀晃
高橋 徹、中村 明浩、野崎 英二

60 2 枝慢性完全閉塞病変で発症した急性冠症候群の一例

公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂綜合病院 循環器内科
○佐久間裕也、水上 浩行、谷川 俊了、鈴木 智人
金澤 正晴

61 心破裂に対して保存療法で経過をみたが、再度心破裂して左室自由壁修復術で救命しえた一例

岩手県立中部病院 ○盛川 宗孝、齊藤 秀典、西澤 健吾、井筒 大人
土川 幹史

62 Plaque erosion で発症した若年急性心筋梗塞の 1 例

むつ総合病院、弘前大学 医学部 附属病院 循環器内科
○外崎 桃子
弘前大学 医学部 附属病院 循環器内科
樋熊 拓末、遠藤 知秀、西崎 史恵、花田 賢二
横山 公章、横田 貴志、山田 雅大、富田 泰史

63 特発性血小板減少性紫斑病を合併した重症三枝病変の急性冠症候群に対する治療経験

太田綜合病院附属太田西ノ内病院 循環器センター 循環器内科
○安藤 卓也、小松 宣夫、大原妃美佳、和田 健斗
金澤 晃子、石田 悟朗、神山 美之、武田 寛人
太田綜合病院附属太田西ノ内病院 血液内科
高橋 裕志
福島県立医科大学 循環器内科学講座
竹石 恭知

虚血性心疾患 2（第 3 会場 188 会議室） 9：45～10：20

座長 渡邊 哲

64 甲状腺機能低下症の治療中断が影響した、虚血性心疾患に対し手術を施行した 1 例

岩手県立中央病院 心臓血管外科 ○片平晋太郎、小田 克彦、伊藤 校輝、高橋 悟朗
長嶺 進

65 運動誘発性冠攣縮に伴う無症候性心筋虚血の 1 例

東北大学 循環器内科学 ○杉澤 潤、松本 泰治、土屋 聡、須田 彬
進藤 智彦、羽尾 清貴、菊地 翼、高橋 潤
坂田 泰彦、下川 宏明

66 繰り返す冠攣縮に伴う心室細動に対して皮下植込型除細動器（S－ICD）を施行した若年男性の一例

岩手医科大学附属病院 循環器内科
○辻 佳子、木村 琢巳、二宮 亮、後藤 巖
中島 悟史、梶田 房紀、大和田真玄、小松 隆
房崎 哲也、伊藤 智範、森野 禎浩

67 急性冠症候群に対する緊急心臓カテーテル検査で発見された膜様部心室中隔瘤の一例

岩手医科大学附属病院循環器医療センター 循環器内科
○古味 良亮、肥田 頼彦、後藤 巖、坂本 翼
下田 祐大、森野 禎浩

68 アキレス腱のレントゲン撮影が家族性高コレステロール血症の診断に寄与した症例

仙台厚生病院 ○伊澤 毅、堀江 和紀、伊藤 真輝、柳内 隆
水谷有克子、田中綾紀子、箴井 宣任、松本 崇
桜井 美恵、多田 憲生、宗久 雅人、宗久 佳子
本多 卓、大友 達志 井上 直人、目黒泰一郎

虚血性心疾患 3（第 3 会場 188 会議室） 10：20～10：48

座長 飯野 健二

69 冠攣縮部位の器質的狭窄の進行を OFDI で観察できた 1 例

東北大学 循環器内科学

○菊地 翼、土屋 聡、杉澤 潤、須田 彬
進藤 智彦、羽尾 清貴、白戸 崇、松本 泰治
高橋 潤、下川 宏明

70 失神を主訴に搬送、2 回心破裂を来した 1 例

山形県立中央病院 循環器内科

○數野 健、福井 昭男、佐藤 大樹、鈴木 康太
大道寺飛雄馬、加藤 重彦、高橋 克明、玉田 芳明
松井 幹之、矢作 友保

71 初回心筋梗塞発症後の長期経過について

仙台市医療センター仙台オープン病院 循環器内科

○浪打 成人、杉江 正、瀧井 暢、牛込 亮一
小鷹 悠二、加藤 敦

72 責任病変の同定が困難で 2 枝同時 PCI を要した周術期心筋梗塞の 1 症例

山形大学医学部附属病院 第一内科

○宮本 卓也、山中 多聞、水戸 琢章、熊谷 遊
横山 美雪、和根崎真大、大瀧陽一郎、田村 晴俊
西山 悟史、高橋 大、有本 貴範、穴戸 哲郎
渡邊 哲、久保田 功

心膜・腫瘍（第3会場 188会議室） 10:48～11:23

座長 矢作 浩一

73 心膜肥厚、石灰化を伴わず診断に難渋した収縮性心膜炎の一例

国立病院機構仙台医療センター 循環器内科

○高橋 佳美、林 秀華、山中 信介、山口 展寛
尾上 紀子、石塚 豪、篠崎 毅

74 心膜剥皮術によって症状改善後も constrictive パターンの残存した収縮性心膜炎の一例

東北医科薬科大学病院 循環器内科

○長谷川 薫、門脇 心平、菊田 寿、住吉 剛忠
関口 祐子、山家 実、宮下 武彦、中野 陽夫
小丸 達也、片平 美明

東北医科薬科大学病院 総合診療内科

大原 貴裕

東北医科薬科大学病院 心臓外科 三浦 誠

75 完全房室ブロックを契機に発見された心臓原性悪性リンパ腫の一例

岩手県立磐井病院

○小田 英人

岩手医科大学付属病院

古味 良亮、坂本 翼、肥田 頼彦、下田 祐大
森野 禎浩

岩手県立大船渡病院

石川 有

76 心膜炎を発症し発見された気管支原性嚢胞の一例

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

○中村真理絵、佐々木加弥、下田 祐大、森野 禎浩

岩手医科大学 内科学講座 心血管・腎・内分泌内科分野

菅原 正磨、安孫子明彦、中村 元行

岩手医科大学 心臓血管外科学講座

岡林 均

77 DPP-4 阻害薬ビルダグリプチン投与中に心嚢液貯留を認めた一例

庄内余目病院 心臓血管外科

○圓本 剛司、巖田 巖田、寺田 康

肺循環（第3会場 188会議室） 11:23～12:05

座長 中里 和彦

78 鎖骨下静脈血栓症の一例

東北医科薬科大学 医学部 内科学第一教室 循環器内科

○菊田 寿、片平 美明、小丸 達也、中野 陽夫
宮下 武彦、山家 実、関口 祐子、住吉 剛忠
門脇 心平、中潟 寛

79 バルーン肺動脈形成術後に突然死した慢性血栓塞栓性肺高血圧症の一例

岩手県立中央病院 循環器内科

○渡辺 翼、遠藤 成、中村 暁、和山 啓馬
門坂 崇秀、中田 貴史、佐藤謙二郎、金澤 正範
近藤 正輝、遠藤 秀晃、高橋 徹、中村 明浩
野崎 英二

80 右内腸骨静脈血栓症により肺梗塞を発症した一例

石巻市立病院

○二瓶 太郎、遠藤 貴士、赤井健次郎

81 慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術の長期予後

東北大学 循環器内科学

○青木 竜男、杉村宏一郎、建部 俊介、山本 沙織
矢尾板信裕、佐藤 遥、神津 克也、紺野 亮
後岡広太郎、佐藤 公雄、下川 宏明

82 トレプロステニルを皮下投与で導入した肺動脈性肺高血圧症の5症例

東北大学 循環器内科学

○青木 竜男、杉村宏一郎、建部 俊介、山本 沙織
矢尾板信裕、佐藤 遥、神津 克也、紺野 亮
後岡広太郎、佐藤 公雄、下川 宏明

83 右室内血栓を伴う肺動脈血栓塞栓症の一例

竹田総合病院 心臓血管外科

○齋藤 正博、川島 大、前場 覚

心不全 1（第 4 会場 187 会議室） 9：10～9：45

座長 松本 泰治

84 Bridge to candidacy として体外式 VAD と肺血管拡張薬療法を行った修正大血管転位症の 1 例

東北大学 循環器内科学

○紺野 亮、建部 俊介、杉村宏一郎、青木 竜男
山本 沙織、矢尾板信裕、佐藤 公雄、下川 宏明

東北大学病院 心臓血管外科

安達 理、齋木 佳克

岩手医科大学 小児科

小山耕太郎

85 治療抵抗性の HFpEF 症例に ASV（Adaptive Servo-Ventilator）の導入が有用であった一例

みやぎ県南中核病院

○小山 二郎、福井 健人、伊藤 愛剛、塩入 裕樹
富岡 智子、井上 寛一

86 ミルリノン負荷を行った肺高血圧合併重症心不全の一例

福島県立医科大学 循環器内科

○遠藤圭一郎、佐藤 崇匡、武藤 雄紀、国分 知樹
國井 浩行、竹石 恭知

87 当院における植込み型左心補助人工心臓 50 例の成績

東北大学病院 心臓血管外科

○秋山 正年、河津 聡、吉岡 一郎、安達 理
熊谷紀一郎、川本 俊輔、齋木 佳克

東北大学 循環器内科学

高橋 潤、杉村宏一郎、青木 竜男、下川 宏明

88 人工呼吸器管理を要した産褥心筋症の一例

岩手県立中央病院 循環器内科

○門坂 崇秀、和山 啓馬、中田 貴史、渡辺 翼
佐藤謙二郎、金澤 正範、近藤 正輝、遠藤 秀晃
高橋 徹、中村 明浩、野崎 英二

心不全 2（第 4 会場 187 会議室） 9：45～10：20

座長 中野 陽夫

89 脚気心を併発した急性心不全の一例

岩手県立中央病院 循環器内科 ○和山 啓馬、照井 洋輔、中田 貴史、門坂 崇秀
渡辺 翼、佐藤謙二郎、金澤 正範、近藤 正輝
遠藤 秀晃、高橋 徹、中村 昭浩、野崎 英二

90 慢性心不全終末期例に対するアドバンスケアプランニングのとりくみ

社会医療法人明和会 中通総合病院
○佐藤 誠、篠崎真莉子、播間 崇記、阪本 亮平
五十嵐知規

91 慢性心不全患者における健康管理意識と性差に関する研究 -CHART-2 研究からの報告-

東北大学 循環器内科学 ○阿部 瑠璃、坂田 泰彦、三浦 正暢、笠原信太郎
及川 卓也、佐藤 雅之、青柳 肇、後岡広太郎
白戸 崇、高橋 潤、下川 宏明
東北大学 循環器 EBM 開発学 宮田 敏

92 高齢者心不全の臨床的特徴と予後規定因子についての検討 -CHART-2 研究からの報告-

東北大学 循環器内科学 ○佐藤 雅之、坂田 泰彦、及川 卓也、阿部 瑠璃
笠原信太郎、青柳 肇、後岡広太郎、白戸 崇
高橋 潤、宮田 敏、下川 宏明

93 HFpEF、HFmrEF、HFrEF における BNP の予後予測能 -CHART-2 研究からの報告-

東北大学 循環器内科学 ○笠原信太郎、坂田 泰彦、後岡広太郎、阿部 瑠璃
及川 卓也、佐藤 雅之、青柳 肇、白戸 崇
高橋 潤
東北大学 循環器 EBM 開発学 宮田 敏
東北大学 循環器内科学、循環器 EBM 開発学
下川 宏明

第6回 禁煙推進委員会 地方会セッション

2017年6月10日(土)

場所／盛岡地域交流センターマリオス
第1会場(岩手県盛岡市)

時間／10:50～11:50 (60分枠)



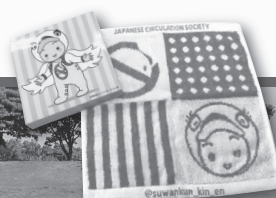
内容 「禁煙診療の5W1H、解決します!!」

会長 森野 禎浩 先生 (岩手医科大学内科学講座 循環器内科学分野 教授)

座長 佐藤 誠 先生 (中通総合病院)
中島 悟史 先生 (岩手医科大学医学部)

講演1 「脳心血管病予防・治療に禁煙は必須
一日循の禁煙啓発活動を踏まえて」
飯田 真美 先生 (岐阜県総合医療センター)

講演2 「タバコを止める気にさせるコツー禁煙指導の実際ー」
三浦 進一 先生 (外旭川病院)



ぼくの
タオルチーフを
プレゼント♪



一般社団法人 日本循環器学会

学術委員会 小児・成人先天性心疾患部会 小児・成人先天性心疾患セミナー
10:00～11:30（盛岡市民文化ホール 5F 第2会議室）

「循環器内科医に必要な成人先天性心疾患診療の基礎知識」

座長 建部 俊介 先生（東北大学 循環器内科学）

小山耕太郎 先生（岩手医科大学 小児科）

1. 成人先天性心疾患診療の現状と課題

東京大学医学部 小児科 犬塚 亮 先生

2. 成人先天性心疾患の心エコー図診断のポイント

秋田大学医学部 小児科 豊野 学朋 先生

3. 成人先天性心疾患の不整脈の診断と治療

国際医療福祉大学病院 循環器内科・ハートリズム科 福田 浩二 先生

4. 成人先天性心疾患患者の妊娠・出産マネジメント

榊原記念病院 胎児周産期科 桂木 真司 先生

5. ASD・PDA のデバイス治療

仙台厚生病院 循環器内科 多田 憲生 先生

6. 成人先天性心疾患の外科・移植医療

東北大学病院 心臓血管外科 安達 理 先生

DVD セッション 9:10~11:10 (第5会場:186 会議室)
「医療安全・医療倫理に関する講演会」

心肺蘇生法普及委員会 11:45~12:00 (第4会場:187 会議室)

YIA 審査会 10:40~11:15 (182 会議室)

支部役員会 11:15~11:45 (182 会議室)

支部社員総会・支部評議員会・YIA 授賞式
12:10~12:40 (第1会場:183~185 会議室)

教育セッション 1

ランチョンセミナー 1「弁膜症治療の現状と将来」
12:50~13:50 (第2会場:180・181 会議室)

座長:岩手医科大学 心臓血管外科学講座 教授 金 一 先生

1「大動脈弁形成術の最前線」

心臓血管研究所付属病院 心臓血管外科 部長 國原 孝 先生

2「TAVI の実際:どのような症例が適し、治療を受け、その後の経過をおくるのか」

仙台厚生病院 循環器内科 部長 多田 憲生 先生

共催:第164回日本循環器学会東北地方会
エドワーズライフサイエンス株式会社

教育セッション 2

ランチョンセミナー 2 12:50~13:50 (第1会場:183~185 会議室)

座長:福島県立医科大学 循環器内科学講座 主任教授 竹石 恭知 先生

1「トルバプタン時代の心不全診療と多職種連携

ーいま現場にどのような意識変化がおこっているかー」

岩手医科大学 医学教育学講座 地域医療学分野

循環器医療センター 心血管リサーチセンター 教授 伊藤 智範 先生

2「心腎連関を踏まえた次世代の心不全治療」

富山大学大学院 医学薬学研究部 内科学第二 教授 絹川弘一郎 先生

共催:第164回日本循環器学会東北地方会
大塚製薬株式会社

教育セッション 3

特別講演 13:50~14:50 (第1会場:183~185 会議室)

座長:岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野 教授 森野 禎浩 先生

「冠動脈疾患患者における積極的脂質低下療法的重要性-LDL仮説の確立-」

熊本大学大学院生命科学研究部 循環器内科学 教授 辻田 賢一 先生

共催:第164回日本循環器学会東北地方会
サノフィ株式会社

DVDセッション

「医療安全・医療倫理に関する講演会」

専門医の認定更新に必修の「医療安全・医療倫理に関する研修」に関する2単位を取得できるDVDセッションを開催致します。

3月の日本循環器学会学術総会もしくはインターネットでも視聴できます。詳細は以下をご覧ください。

＜必修研修と単位数＞

2009年3月20日の評議員会の審議を経て循環器専門医認定更新の際に所定の研修が必修となりました。

専門医認定更新には下記の必修研修単位を含む合計50単位が必要となります。

(1) 最新医療の知識習得に関する研修……30単位以上

日本循環器学会主催の学術集会・地方会（いずれも教育セッションを含む）への参加にて単位を取得してください。

該当の研修単位数……本会年次学術集会10単位、（学術集会時の）教育セッション5単位、各地方会5単位、（地方会時の）教育セッション3単位

(2) **医療安全・医療倫理に関する研修……2単位以上**

本会学術集会または本会地方会で開催の「医療安全・医療倫理に関する講演会」への参加。あるいはインターネットでの視聴研修プログラムによる研修で単位を取得してください。

単位数……（上記どの方法で取得されても）2単位

※同じ研修内容を視聴された場合には重複して単位は加算されませんのでご注意ください。

お問い合わせ先：（一社）日本循環器学会 専門医制度委員会 TEL：03-5501-0863 E-mail：senmoni@j-circ.or.jp
--

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

（総 則）

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

（事務局）

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

（目的および事業）

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

（会 員）

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員 / 支部特別会員 / 支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

（社 員）

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

（支部長）

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

（支部役員）

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

（支部監事）

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。

3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事および JCS-ITC 担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会 / 社員総会において会計報告及び JCS-ITC 業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法 / 任期 / 定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第11条 各地方会に会長1名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理 / 事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第12条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年1回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

（支部社員総会）

第13条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項（JCS-ITC 報告など）
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

（支部評議員会）

第14条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項（JCS-ITC 報告など）
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

（支部事務局業務）

第15条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要（事後確認可）とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

（地方会）

第16条 各支部は地方会を年 1 回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。

5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC 講習会をJCS-ITC 担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC 講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC 担当幹事による確認を必要（事後確認可）とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

（目的）

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

（定義）

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

（支部役職者及び支部職員の責務）

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。
 - 1) 規程について正しい知識がなかったこと
 - 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
 - 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部運営内規

(総 則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を東北支部(以下「本支部」という。)において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東北大学大学院医学系研究科循環器内科学内に設置する。

(支部長・副支部長)

第3条 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は4月1日からとする。

2. 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない

3. 支部長が本支部とは別の支部に異動した場合、支部長として退任となる。

第4条 本支部に副支部長1名を置く。

2. 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。

3. 支部長に事故あるとき、または支部長が別支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。

(支部役員)

第5条 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部長推薦枠として本支部においては、会員である東北地区6大学の循環器を担当する内科の教授が就任することとする。その他にも支部役員として必要な人物がいる場合は、支部長が推薦する。

2. 任期中において各大学教授の交代があった場合は役員も変更となるが、就任期間は前任者を引継ぐこととする。

3. 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第6条 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。

2. 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、本支部においては、支部運営から独立性をもった者を、支部長が候補者を会員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。

3. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第7条 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC 担当幹事1名、その他幹事を若干名とし、支部役員、支部評議員との兼務も可能とする。

2. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
4. JCS-ITC 業務担当幹事は、会員かつファカルティーの中から選出することとする。ファカルティーがいない場合は会員かつコースディレクターの中から選出する。
5. 支部幹事は、それぞれの業務において投資が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

（支部評議員）

第8条 支部規程第10条に定める支部評議員は、支部役員1名の推薦により選出し、支部役員会及び支部社員総会において承認する。

2. 候補者は、支部役員会予定日より15日以前に所定の用紙を用いた履歴書、業績書及び支部役員1名が署名・捺印した推薦書を支部長へ提出する。
3. 支部評議委員会に正当な理由なく3回連続して欠席した者、退会した者、東北地区から移動した者は、支部評議員の資格を喪失する。
4. 支部評議員の任期は4年とし再任は妨げない。
5. 支部評議員の辞職は支部役員会及び支部社員総会において承認する。
6. 支部評議員の期中での辞職については、速やかに補充を行うこととし、支部役員会にて承認した上で、後日支部社員総会において追認する。なお任期は前任者を引継ぐこととする。

（地方会会長）

第9条 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」に定められた内容を遵守しなければならない。

2. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
3. 地方会会長は、地方会開催日程の決定を行う。
4. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
5. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
6. 地方会運営にあたる企画会社の選定は、会長一任とするが、企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
7. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設しなければならない。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のものが利用出来ない体制を構築しなければならない。
8. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

（支部名誉会員）

第10条 支部規程第4条2項に定める支部名誉会員は、東北地区単独の支部社員総会において選任する。

2. 支部名誉会員の被推薦資格は、支部社員総会開催日において年齢 65 歳以上（当日に 65 歳を迎える者を含む）の東北支部所属の会員であり、支部評議員を 3 期以上務めたものとする。
3. 支部名誉会員は、支部評議員会に出席することができる。また、支部社員総会にも出席することができるが議決権は有しない。
4. 支部名誉会員は、支部役員、支部幹事の兼務を不可とする。
5. 支部名誉会員は、永年資格とする。
6. 支部名誉会員の内、東北地方会で会長を務めた者、支部長を務めた者は、支部特別名誉会員と呼ぶ。処遇は支部名誉会員に準用する。

（支部社員総会、支部評議員会）

第11条 支部規程第 13 条に定める支部社員総会、支部規程第 14 条の支部評議員会は、同時開催することとする。

（支部事務局業務）

第12条 支部規程第 15 条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

（地方会）

第13条 支部規程第 16 条 1 項に定める地方会について、本支部は原則として毎年 2 回地方会を開催する。

2. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会東北地方会とする。
地方会運営に関するその他の事項は地方会運営要領に定めることとする。

（JCS-ITC 講習会）

第14条 支部規程第 17 条 1 項に定める JCS-ITC 講習会について、本支部は JCS-ITC 業務担当幹事との協議により支部事務局において事務業務（受講者への連絡、受講料受付・謝金や立替金の精算 等）を行う。なお、これらの事務業務について、円滑業務を遂行することを目的として、支部役員会の承認のもと、外部業者へ業務委託を行っても構わない。委託範囲・経済条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

2. JCS-ITC 講習会の事務業務については JCS-ITC 講習会事務要領に定めることとする。

附 則

- 1) この内規は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 地方会運営要領

この地方会運営要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部（以下「本支部」という）において地方会を円滑に運営するために必要な事項を規定する。

（広 報）

1. 地方会会長は、地方会開催日程、会場、地方会会長事務局の担当者が決まり次第、本支部へ報告する。本支部は「地方会開催連絡票」を本会へ提出するとともに、本支部ホームページに情報を掲載することとする。
2. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。

（会 計）

3. 地方会会長、または、支部事務局担当幹事は、開催前年度の支部役員会・支部社員総会に出席して、本部へ提出予定の地方会予算及び事業計画について事前に承認を得る。また、支部評議員会にて報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる。
4. 地方会参加費は、正会員 3,000 円、コメディカル 1,000 円、初期研修医無料、学部学生無料とする。参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
5. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。なお寄付金受入先について、本会が禁煙宣言を行っている学会であることを鑑み、本会学術集会同様、日本たばこ産業・鳥居薬品からの寄付受入は禁ずる。
6. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部よりその経費を補助する。ただし、上限を 100 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
7. 地方会において男女共同参画セミナーを実施する場合は、本支部より講師招請経費を補助する。ただし上限を 20 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
8. 地方会開催にあたり開設する金融機関の口座名義は、「一般社団法人日本循環器学会第〇〇回 東北地方会 会長 〇〇〇〇」とする。
9. 地方会当日の現金（参加費）の取扱いについて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10. 地方会当日に徴収した参加費について、当日中に口座入金するか金庫に保管することとする。地方会終了後、翌営業日には口座入金することとする。
11. 教育講演の招請者への待遇について、謝金上限は演者 100,000 円（源泉税抜）、座長 50,000 円（源泉税抜）、交通費は実費支給とし、地方会当日、直接本人へ現金もしくは振込対応する。これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
12. 地方会で支払われた講演謝金及び会長校スタッフ臨時雇用費の源泉所得税は、地方会会長事務局において納付対応する。なお東北支部事務局から参加したスタッフ臨時雇用費は、東北支部事務局において納付対応する。
13. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。

14. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会繰越金専用口座に振り込むこととし、地方会開催に関係無い備品等の購入に充ててはならない。その後、口座は解約する。
15. 地方会の経費精算は、原則地方会終了後2か月以内に完了させ、入出金に係るすべての証憑を本支部に提出しなければならない。外部の団体から助成金・補助金を受けた場合は、交付決定通知書の控えも提出すること。
16. 地方会会長は、開催次年度の支部役員会・支部社員総会、支部評議員会に出席して、地方会決算及び事業内容の報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる。

(会 議)

17. 支部役員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部事務局が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
18. 支部社員総会、支部評議員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
19. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。

(演題募集)

20. 地方会会長は、演題募集スケジュールを決定し、「地方会演題募集ホームページ利用申請書」を本会及び本支部へ提出する。演題募集の開始日・締切日は前後に祝日のない火曜日から木曜日で設定すること。申請書の提出期限はオンライン演題募集システム利用開始の2カ月前とする。
21. 本支部は、オンライン演題募集システムの管理者用ID及びパスワードを地方会会長事務局へ通知する。なお、パスワードについては、本支部が毎年度更新することとし、変更後のパスワードを本会に通知する。
22. 募集締切日延長等の連絡は、混乱を避けるために必ず本会経由で行うこととする。

(専門医単位登録)

23. 地方会会長は、詳細が決まり次第「教育セッション開催届」ならびに「DVD セッション開催届」(DVD セッションを開催する場合に限る)を本会及び本支部へ提出しなければならない。
24. 地方会会長事務局は、地方会時に専門医単位登録(地方会参加5単位、教育セッション参加3単位、DVD セッション参加2単位)を行うこととするが、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
25. 教育セッション及びDVD セッションの専門医単位登録は、不正やミスを防止するため、時間を限定して行わなければならない。(例:セッション開始1時間(又は30分)前から終了30分前)
26. DVD セッションについて、同じ内容の講演会を学術集会及びインターネットで聴講したことのある会員は、単位加算ができない。地方会会長は事前にプログラム等でその旨を告知し、当日も会場に掲示すること。

(プログラム・抄録)

27. プログラムは、本学会告（偶数月 25 日発行）への抱き合わせで本支部会員へ発送することができる。希望する場合は、「地方会プログラム冊子抱合発送申請書」を本会及び本支部へ提出すること。プログラム以外の発送物（チラシ等）があれば、その内容を申請書に明記すること。申請書の提出期限は、会告発行 1 か月前とする。
28. 抄録については、冊子発行を行わず本会ホームページに掲載する。本会ホームページへの掲載にあたり、抄録著者による校正は行わない。訂正等がある場合には、地方会終了後速やかに本会へ連絡することとする。なお、地方会会長事務局は、その旨をプログラムに記載し会員に告知すること。
29. プログラム完成後、本支部へ 2 部、本会へ 5 部を送付すること。
30. 地方会会長は、抄録データを本会に提出しなければならない。当日発表されなかった演題は抄録データとして扱わない。

(演題発表)

31. 地方会演者は、発表前のスライドにおいて定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
32. 日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award について
 - 1) 当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」（東北地方会 YIA「症例発表部門」「研究発表部門」）を設ける。
 - 2) 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
 - ① 応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。
東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。
 - ② 対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に 1 施設 2 題（ただし 1 科 1 演題）までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。
 - ③ 選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞 1 名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。
 - ④ 会長奨励賞

YIA 希望演題の内、一般病院の演題から 1 題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選出された場合は YIA を優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

⑤応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

⑥賞

部門毎に最優秀賞 1 名（賞金 10 万円）および優秀賞若干名（賞金 5 万円）と表彰状。同点の場合は要検討とする。会長奨励賞は 1 名（賞金 5 万円と表彰状）。

⑦締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

- 3) YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

（その他）

33. 会員への印刷物送付等の必要が生じた場合、本会へ「会員名簿・あて名作成依頼書」を提出して会員名簿及び宛名ラベルを請求することができる。会員情報のデータでの受け取りは原則不可とするが、例外的に申請する場合は、誓約書に会長の署名及び捺印が必要となる。
34. 地方会開催校については、公平を期すため各県で順番に開催する。なお、その順番等の変更については、支部役員会にて決定する。

附 則

- 1) この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- この要領改正は、支部長の判断に基づき、支部事務局にて変更して良い。なお、変更時は、支部役員会での追認が必要となる。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 JCS-ITC 講習会事務要領

この事務要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部事務局において JCS-ITC 事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）を行うために必要な事項を規定する。

日本循環器学会は AHA（アメリカ心臓協会）と契約し、心肺蘇生法の教育を行う JCSITC（国際トレーニングセンター）を開設している。循環器専門医は心停止や心停止前後での蘇生や心拍再開後の集中治療を必要としていることから、AHA ACLS（二次救命救急措置）の資格取得を受験の条件としている。

また、医療従事者や一般市民向けのコースも開催しており、地域の救命率向上を目指していることから支部にてコース運営を行っており、それに付随する事務業務も支部事務局にて行っている。

※支部運営内規 第 6 条 3 にて定められる JCS-ITC 業務担当幹事はファカルティから選出される。

ファカルティは各コースの運営統括責任者であり、新たなインストラクターを教育する立場である。

1. 年 4 回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
2. コース開催日程は、支部ホームページに掲載することとする。
3. コース募集期間中、コースディレクター（以下、CD と略す）と連携を取り、受講者からの問い合わせ対応を行うこと。
4. 下記内容についての受講者への連絡を行うこと。
採択通知、追受講者の代理登録（CD より指示があった場合）、会場変更、コース中止
5. 講習会管理システムから受講者を確認し、受講者からの受講料入金確認を行うこと。
規定日までに入金が確認できない場合には、入金の督促を行うこと。
6. 受講者より受講料領収書の発行依頼があった場合の発行手続きを行うこと。
7. 支部担当者が交代する場合には業務内容を明確の上、後任者へ引継ぎを行い、業務に支障が生じないようにすること。また支部担当者が急病等で業務を行えない場合は、事務局担当幹事より JCS-ITC 業務幹事に速やかに連絡をし、JCS-ITC 業務幹事と支部長において今後の対応を検討する、こと。
8. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。
9. 専用口座は、通帳管理者・印鑑管理者・キャッシュカード使用者（作成している場合のみ）を明確にし、一覧にして支部長へ提出しなければならない。（一覧に変更が生じた場合は随時、見直しを行い更新の上、提出する。）
10. 専用口座の通帳、印鑑は、使用者が施錠出来る場所に必ず保管しなければならない。
また、キャッシュカード、パスワードについては使用者が変更となる度に変更しなければならない。
11. コース開催時にコースディレクター等が昼食代等の立替精算をした場合、必ず領収書（レシート可）を入手し、何を購入し、何に利用したのか、誰が立替えしたのか、分かるように領収書に記載（メモ書き可）の上、支部事務局へ提出すること。なおコース運営が参加者の受講料から成り立っていることを鑑み、不必要な経費支出は行ってはならない。

12. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクと各自立替えしたコース開催地までの交通費について、支部事務局へ報告しなければならない。支部事務局はコースディレクターからの報告に基づき、インストラクター・タスク一覧を作成する。
13. 各コースディレクターがコースに必要な資金を前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 業務担当幹事のメール承認を要する。
なお、JCS-ITC 業務担当幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
14. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛ての領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
15. 支部事務局は、インストラクター・タスク一覧、提出された旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金金額については本会、救急医療委員会において定められたとおりとする。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）
16. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。
17. JCS-ITC 講習会運営専用口座で余剰金が 1000 万円を超えた場合、支部の JCS-ITC 講習会専用口座に資金を移行する。

附 則

- ・この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- ・この要領改正は、支部役員会での決定を必要とする。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 会則

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA) を設ける。
2. 本会則は平成 21 年 2 月 14 日に開催される第 147 回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。
3. 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
4. YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award (東北地方会 YIA)

演題応募要領

趣 旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA) を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。
東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に 1 施設 2 題（ただし 1 科 1 演題）までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞 1 名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

会長奨励賞

YIA 希望演題の内、一般病院の演題から 1 題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選出された場合は YIA を優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

賞

部門毎に最優秀賞 1 名（賞金 10 万円）および優秀賞若干名（賞金 5 万円）と表彰状。同点の場合は要検討とする。
会長奨励賞は 1 名（賞金 5 万円と表彰状）。

締 切

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

第 164 回日本循環器学会東北地方会 YIA 審査員

(敬称略)

青 森

弘前大学 循環器腎臓内科学
青森県立中央病院

准教授 富田 泰史
病院長 藤野 安弘

岩 手

岩手医科大学 循環器内科分野
岩手県立中央病院 循環器センター

教 授 森野 禎浩
センター長 中村 明浩

秋 田

秋田大学 循環器内科学・呼吸器内科学
市立秋田総合病院

准教授 渡邊 博之
副院長 中川 正康

山 形

山形大学 内科学第一講座
山形県立中央病院 循環器内科

教 授 久保田 功
部 長 松井 幹之

宮 城

東北大学 循環器内科学
国立病院機構仙台医療センター 循環器内科

教 授 下川 宏明
部 長 篠崎 毅

福 島

福島県立医科大学 循環器内科学講座
大原総合病院

教 授 竹石 恭知
副院長 石橋 敏幸

日本循環器学会東北支部役員（平成 29 年 4 月 1 日現在）

支 部 長	下川 宏明			
副 支 部 長	久保田 功			
理 事	下川 宏明	久保田 功	横山 斉(外科分野／東日本地区)	
支 部 役 員	下川 宏明(東北大学／支部長・理事)	久保田 功(山形大学／副支部長・理事)		
	横山 斉(福島県立医科大学／理事／外科分野)			
	伊藤 宏(秋田大学)	中村 元行(岩手医科大学)		
	竹石 恭知(福島県立医科大学)	森野 禎浩(岩手医科大学)		
	伊藤 貞嘉(東北大学／その他分野)	齋木 佳克(東北大学／外科分野)		
	富岡 智子(みやぎ県南中核病院／女性分野)			

名誉特別会員	白土 邦男	平 則夫	丸山 幸夫	三浦 博
名 誉 支 部 員	青木 孝直	芦川 紘一	池田 精宏	石出 信正
	伊藤 明一	猪岡 英二	今井 潤	大和田憲司
	岡林 均	小野 幸彦	門脇 謙	金澤 正晴
	金塚 完	木島 幹博	小岩 喜郎	後藤 敏和
	齋藤 公男	佐々木 弥	佐藤 昇一	高松 滋
	立木 楷	田中 元直	田巻 健治	布川 徹
	星野 俊一	前原 和平	三浦 幸雄	三国谷 淳
	室井 秀一	元村 成	盛 英機	保嶋 実
	柳澤 輝行	山本 文雄	渡辺 毅	

支 部 評 議 員	各県ごと五十音順、○印は社員（旧：全国評議員）			
青 森	佐々木真吾	富田 泰史	長内 智宏	花田 裕之
	平賀 仁	福田 幾夫	藤野 安弘	森 康宏
岩 手	伊藤 智範	小松 隆	佐藤 衛	瀬川 郁夫
	田代 敦	中村 元行	野崎 英二	蒔田 真司
	○森野 禎浩			
秋 田	阿部 芳久	飯野 健二	○伊藤 宏	小林 政雄
	齋藤 崇	鈴木 泰	田村 芳一	中川 正康
	長谷川仁志	○渡邊 博之		
山 形	池田こずえ	池野栄一郎	小熊 正樹	金谷 透
	○久保田 功	貞弘 光章	菅原 重生	廣野 摂
	福井 昭男	松井 幹之	宮脇 洋	○渡邊 哲
宮 城	○伊藤 健太	○伊藤 貞嘉 ³	加賀谷 豊	上月 正博
	小丸 達也	○齋木 佳克 ¹	西條 芳文	坂田 泰彦
	○下川 宏明	高橋 潤	○富岡 智子 ²	○福田 浩二
	○堀内 久徳	山家 智之		
福 島	石田 隆史	石橋 敏幸	○齋藤 修一	斎藤 富善
	佐藤 匡也	杉 正文	○竹石 恭知	武田 寛人
	○横山 斉 ¹			

1. 外科分野、2. 女性分野、3. その他の分野

会 計 監 事	石出 信正	猪岡 英二	
幹 事	支部事務局担当幹事	：坂田 泰彦（東北大学）	
	JCS-ITC 講習会担当幹事	：花田 裕之（青森県立中央病院）	
	幹事	：杉村宏一郎（東北大学）	

